

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和4年10月25日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者 (申請者)

所 属 肥前セラミック研究センター

職 名 助 教

氏 名 HAO DONG

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	『2022年第1回国際セミナー『やきもの産地のまちづくり』		
2.事業責任者 (申請者)	HAO DONG	3.所属・職名	肥前セラミック研究センター・ HAO DONG
4.開催期間	令和4年9月27日～令和4年9月27日		
5.申請区分	A) 学術交流協定 (大学名) B) 共同研究 C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿 (別添) を添付	参加者数 58 名 内、 <u>外国人</u> 数 22 名、 <u>研究者</u> 数 52 名、 <u>学部学生</u> 数 6 名、 <u>修士以上学生</u> 数 17 名		
7.招待講師	1. 所 属 中国景德鎮陶瓷大学管理与经济学院 職 名 教 授 氏 名 黄弘 (Hong Huang) 2. 所 属 韓国慶熙大学校芸術デザイン学院 職 名 教 授 氏 名 方昌鉉 (ChangHyun Bang) 3. 所 属 中国景德鎮陶瓷大学陶瓷美术学院 職 名 准教授 氏 名 李超 (Chao Li) 4. 所 属 佐賀大学肥前セラミック研究センター 職 名 准教授 氏 名 本田智子		
8.支出額	金 額 200,000 円 【内訳】		

	謝金	200,000	円 (講師 3 万*3 = 9 万円、通訳11万円)
	旅費		円
	消耗品費		円

9.国際研究集会の内容

「2022 年度国際セミナー やきものの産地のまちづくり」

日時: 令和 4 年 9 月 27 日(火曜日)13 時 00 分～16 時 00 分

場所: オンライン Web 配信(Zoom)

発表言語: 英語/日本語(同時通訳)

プログラム:

司会: 有馬隆文・佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授

13:00-13:05 開会挨拶

矢田光徳・佐賀大学肥前セラミック研究センター長

13:05-13:45 講演 1 「景德鎮におけるセラミック産業の戦略の方向性と窯業発展」

講師: 黄弘 (Hong Huang)・景德鎮陶瓷大学管理与经济学院・教授

13:45-14:25 講演 2 「韓国のセラミックの中心地:陶芸のまち—利川」

講師: 方昌鉉(ChangHyun Bang)・慶熙大学芸術デザイン学院・教授

14:25-14:30 休み 5 分

14:30-15:10 講演3 「景德鎮における国際展示会と産学研究連携によるまちづくりの推進」

講師: 李超・景德鎮陶瓷大学美術学院・准教授

15:10-15:40 講演4 「やきものと芸術分野のコラボレーションによる産業・地域振興

～ARITA×SOGETSU の事例から～

講師: 本田智子・佐賀大学肥前セラミック研究センター・准教授

15:40-15:45 閉会挨拶

有馬隆文・佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授

※ 各講演後、質疑応答 10 分

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

肥前セラミック研究センター主催による 2022 年度第 1 回国際セミナー『やきものの産地のまちづくり』を 2022 年 9 月 27 日にオンラインにて開催し、大学教職員、学生、肥前地域関連する窯業技術者、KICET、景德鎮陶瓷大学など、延べ 58 名が参加した。

このセミナーは肥前セラミック研究センターが本年度に開催した第 1 回の国際セミナーであり、景德鎮陶瓷大学との国際交流活動によるものです。景德鎮陶瓷大学の黄教授と李准教授、韓国慶熙大学校の方教授と本センターの本田准教授は東アジア三国の代表的な陶磁器の産地のセラミック産業、国際展覧、産学研究連携とまちづくりに関する研究を報告しました。参加者は、景德鎮と利川に

おけるセラミック産業と産地の発展を理解することができました。特に、韓国利川の産業が急速に発展していることに関心がありました。また、参加者は、近年の景德鎮の国際化の取り組みに感銘を受けていました。また、国際セミナーを通して肥前セラミック研究センターの影響力を拡大し、国際的なセラミック研究組織の構築、人材育成と地域の発展に貢献するのにも適しています。

今後ますます、肥前セラミック研究センターは国際交流を深めてまいります。同時に、今回開催された国際セミナーをベースに、12月に2022年度第2回国際セミナーは景德鎮陶磁大学文博学院と共催予定しております。また、来年コロナ収束のため、予算できれば、予算できれば、有田キャンパスに、本学主催、韓国窯業技術院と中国景德鎮陶瓷大学共催の2023アジア陶磁器シンポジウムの開催を試みる。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていたほても構いません。